

ひょうごの遺跡2021

— 調査研究速報 —

2021年1/16(土)～3/14(日)

鑑賞の手引き

令和元年度調査報告書刊行遺跡

はら だ に し

原田西遺跡(伊丹市)

弥生時代

加工用の石斧が出土

弥生時代中期の壺や甕、柱状片刃石斧が、中世全般にわたって機能した条里に伴う大溝の中から、出土しました。

柱状片刃石斧は凝灰質砂岩製で、猪名川流域はもとより西摂平野でも珍しいものです。猪名川流域をはじめ大阪湾沿岸では、徳島県の吉野川流域で産出する緑色片岩を用いたものが主流ですが、原産地からやや離れた淀川流域では入手困難であったため凝灰質砂岩製または硬砂岩製が分布しています。

付近一帯はかつての猪名川とその支流が南北方向に網目のように流れており、その間から過去の発掘調査により弥生時代前期の竪穴住居1棟と弥生時代中期の方形周溝墓13基が見つかっています。方形周溝墓のうち5基には木棺が残っていました。流路には弥生時代中期に水田域に水を送るための大規模な井堰が設けられています。方形周溝墓を中心に多数の弥生土器が出土したほか、流路や溝などからも石斧や石庖丁、石鏃、削器、石剣など各種の石器が豊富に出土しました。



石器(今回出土:●印)



今回出土した柱状片刃石斧

たけ の まえ

竹の前遺跡(姫路市)

弥生時代

広域的な交流

弥生時代から古墳時代と、平安時代末から鎌倉時代の2時期の集落遺跡を調査しました。

中でも注目されるのが弥生時代後期前葉の竪穴住居2棟と溝2条です。竪穴住居は直径が5.3mと6.4mの円形で、床面中央には弥生時代の後半期に播磨地方で特徴的な「1〇型中央土坑」(細長くて浅い土坑(1)と円形のやや深い土坑(〇)がセットになったもの)と呼ばれる、煮炊きや暖房用の炉があります。

2条の溝からは付近の竪穴住居で暮らした人々が投棄したと考えられる多量の弥生土器が出土しています。その中には吉備地方や讃岐地方の影響を受けて製作されたものが含まれ、讃岐地方で作られて持ち込まれた壺も出土しています。

また、東端を流れる自然流路からは弥生時代から古墳時代の土器が出土しており、東海、山陰、四国の各地域の特徴を持つものも見られます。

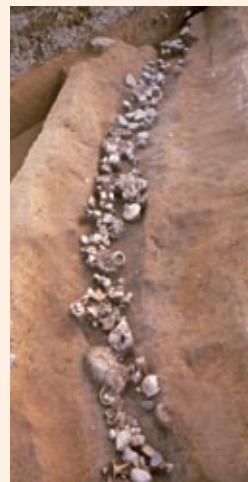
近隣の長越遺跡や飯田湯田遺跡、畑田遺跡とともに様々な地域の特徴を持つ土器が多く見られ、弥生時代後期から古墳時代前期にかけて対外交流の拠点であったのでしょう。



円形の竪穴住居



溝から出土した土器



土器が投棄された溝

塚口山廻遺跡(尼崎市)

古墳時代

家形埴輪?の破片が出土

弥生時代後期後半から末にかけての掘立柱建物3棟、古墳時代後期の掘立柱建物2棟と溝1条、中世以降の掘立柱建物1棟と溝2条が見つかりました。

これらの遺構から弥生土器や土師器、須恵器のほか、形象埴輪かこいがたが出土したことが特筆されます。家形埴輪もしくは圀形埴輪の角部分の破片と考えられますが、裾にまわる突帯の痕跡はなく、明らかではありません。

この埴輪が立てられていた古墳の候補として、西側に隣接する池田山古墳(墳長約71mの前方後円墳)の可能性が高いのですが、溝からともに出土している須恵器の有蓋高坏ゆうがいたかつきとこの埴輪が同時期のものであるとすれば、北西側に隣接する一辺13mの方墳である可能性も考えられます。



古墳時代後期の掘立柱建物と溝

志染中梨木遺跡(三木市)

古墳時代

謎に包まれた古墳集落

志染川中流域の低位段丘に立地する集落です。幅1.0~2.2m、長さ62mの細長い調査範囲において、遺構が高い密度で確認されました。古墳時代中期末から後期にかけての竪穴住居3棟、掘立柱建物と考えられる一辺50~60cmの方形の柱穴群、土坑などが見つかり、三木市教育委員会による既往の調査成果も含めると、古墳時代中期末から終末期の集落が直径200m以上の範囲に広がっていたことになります。

この遺跡の西約1.5kmには、金銅装単鳳環頭大刀をもつ窟屋1号墳(6世紀後半)があります。志染地域は、『播磨国風土記』や『日本書紀』に記された志深しじみの(縮見)屯倉みやげが存在したとされており、古墳時代後期に志染川中流域の低位段丘に展開する志染中梨木遺跡や窟屋藤木遺跡との関連が注目されます。



古墳時代後期の柱穴群

前島・検上田遺跡(西脇市)

奈良時代

土石流との格闘

扇状地の先端部に立地する集落遺跡で、古墳時代後期の竪穴住居1棟と土坑、平安時代以降と考えられる掘立柱建物1棟、奈良時代から平安時代にかけての水路が見つかりました。

古墳時代後期に集落が営まれた後、付近一帯は古代に条里制に伴う開発が行われたと考えられ、調査区内には幅約3mの水路が開削されました。この水路から支流となる3本の溝が分岐しており、それぞれの間隔が均等に約20mずつあけられています。この間隔は条里区画の半折型はおりに分割された1段の短辺である12歩(21.8m)に近く、一連の条里整備に付随した溝と考えられます。

その後、周辺は西側の谷からの土石流で破壊され、水路も平安時代のうちに埋没しますが、中世にはまた新たに掘立柱建物や水田が整備されました。



古代の水路と古墳時代後期の竪穴住居・土坑

喜多・城山城跡(西脇市)

室町時代

武具の金具が出土

南北約120m、東西約100mの楕円形に近い、一部の尾根筋が周囲の山塊とつながった独立丘陵状の地形を利用して築かれています。15世紀に築城され、16世紀に改修が行われています。周囲の平地との比高差は30mほどで、岩盤の露出する急峻な斜面には竪堀が設けられています。丘陵上には郭や段状遺構といった小規模な平坦面を8ヶ所造成し、建物や柵、塀を設けて駐屯地としていたようです。そこから、甲よろいや冑かぶと、籠手かてなどの部品と思われる多数の銅製品・鉄製品や、刀、鉄鎌が出土しています。

一方で天目茶碗や茶臼、青白磁の香炉、京都系の土師皿、すり鉢、漁網錘(おもり)や碁石も見られ、山城での生活を垣間見ることができる品々も出土しました。



急峻な斜面に囲まれた山城

令和2年度調査速報遺跡

たまつ たなか

玉津田中遺跡(神戸市)

弥生時代

弥生時代の墓地

弥生時代前期の墓地が見つかりました。大溝で囲まれた南北65mほどの範囲で、中央付近で方形周溝墓2基、その周辺で土器棺墓6基が見つっています。方形周溝墓とは四角形に溝がめぐる弥生時代に特徴的な墓の形態で、今回は長辺約10mの墳丘に幅約80cmの溝がめぐっていました。溝の中からは壺や甕、石匙(石製の携帯用ナイフ)が出土しています。

方形周溝墓の付近からは石棒が、墓地を区画する大溝からは土偶が出土したことが特筆されます。いずれも縄文時代に特徴的に見られる祭祀具ですが、弥生時代にも引き続き使用されるものです。

墓地を区画する大溝からは、多量の弥生土器や石庖丁、紡錘車(糸紡ぎに使うはずみ車)も出土しています。弥生時代を特徴づける新しい文化要素である弥生土器や石庖丁、方形周溝墓が登場してもなお、縄文系の祭祀具が用いられ続ける状況が明らかになりました。



墓地を区画する溝と方形周溝墓



土坑から出土した石棒

のぼりた

登り田遺跡(姫路市)

奈良時代

播磨国風土記の継潮か

八家川右岸の沖積地に立地する遺跡です。

飛鳥時代から平安時代にかけての掘立柱建物24棟を確認しました。掘立柱建物は南北方向を向くもの、やや東にふるもの、東を向くものの3時期に分かれると考えられます。

さらに、飛鳥時代の馬の墓と考えられる土坑から馬の頭蓋骨が出土しているほか、同時期の他の墓からは土馬2体が出土しています。

出土遺物には、須恵器・土師器をはじめ、播磨地域の国府や駅家、古代寺院から出土する播磨国府系瓦(古大内式軒丸瓦)や、官衙に関連する墨書土器、緑釉陶器、稜椀、土馬などがあります。

『播磨国風土記』飾磨郡美濃里の条には「継潮」という地名が記されています。今回の調査で官衙関連の遺物が出土している点、八家川に面しているという立地から「継潮」である可能性を指摘できます。



古代の掘立柱建物群



土馬



古大内式軒丸瓦

かいばらぎゆうじょうかまち

柏原旧城下町(丹波市)

江戸時代

筆頭家老の屋敷跡

柏原藩筆頭家老であった津田家の屋敷跡の調査を行いました。屋敷跡からは、土器廃棄土坑や柱穴、漆喰塗りのトイレ跡、鋤溝跡(田畑を耕した痕跡)、石組みの排水路、埋桶、埋甕などの遺構が見つかりました。

これらの遺構からは、屋敷内で使用された肥前系、瀬戸美濃系、京焼系、丹波焼などの陶磁器類や瓦類、建築部材などの木製品及び銅銭(寛永通宝)、刀装具(鍔)、煙管、飾り金具、指輪などの金属製品が出土しました。

中でも注目される遺物として、三田焼あるいは王地山焼と考えられる染付磁器の花生けがあります。このような高級磁器や金属製品などの調度品から、当時の上級武士の暮らしぶりが窺えます。



石組みの排水路



水溜めとして使われた木桶



埋甕(丹波焼)

兵庫津は現在の神戸港の前身となる主要な港湾都市で、その歴史は古く奈良時代以前の大輪田泊にまで遡ります。中世には宋や明との貿易の拠点として、江戸時代には東廻り航路、西廻り航路の発着基地として繁栄しました。

今回の発掘調査では、江戸時代から明治時代にかけての町屋、街路が検出され、1836年に描かれた『新在家町水帳絵図』にほぼ一致しています。町屋の区画は細長く、遺構は何層にも重なっており、火災に遭って焼けている状況も確認され、何度も建て替えや補修が行われたことがわかります。

町屋の中からは、カマドをはじめ、埋甕、胞衣壺(胎盤を入れて埋納した壺)が見つかったほか、中国製、肥前系、瀬戸美濃系、丹波焼などの陶磁器類、城をかたどった土製品、茶臼など多様な遺物が出土しています。特に中国製磁器には17世紀前半代の景德鎮窯(江西省)産の青花磁器や五彩と呼ばれる色絵磁器の他、南方の漳州窯(福建省)産の青花磁器が含まれ、きわめて貴重な資料です。

寛永16年(1639)に鎖国体制が完成される頃、中国では明滅亡の混乱期を迎えて中国製磁器の輸入が停滞します。今回出土した中国製磁器は停滞前の最後の隆盛を示すとともに、江戸時代にも茶人を中心に中国製陶磁器への嗜好が強かったことを反映しています。

出土した町屋の遺構や遺物から、中世以来の対中国貿易の拠点であった兵庫津の繁栄の様子が偲ばれます。



火災に遭った町屋の跡



景德鎮窯産の五彩



城形土製品

講演会(公開講座)

【兵庫考古学研究最前線2020】

当館講堂 定員72名【無料・要予約】

※各回13:30~15:00(12:30開場)

- 1月16日(土) **高句麗の壁画古墳(北朝鮮地域)**
申込締切 1月1日 和田 晴吾 当館館長
- 1月30日(土) **黒曜石とサヌカイトー先史時代人の戦略と技術ー**
申込締切 1月15日 藤田 淳 兵庫陶芸美術館所長補佐
- 2月13日(土) **古代中国の金属器を見るー古代鏡展示館の新展示からー**
申込締切 1月29日 長濱 誠司 加西分館事業課長
- 2月27日(土) **墳丘墓からみた弥生と古墳の間ー内場山墳丘墓を中心にー**
申込締切 2月12日 中川 渉 (公財)兵庫県まちづくり技術センター次長
- 3月13日(土) **平野における地形の変化と土地利用**
申込締切 2月26日 山田 清朝 (公財)兵庫県まちづくり技術センター副課長

申込方法：兵庫県立考古博物館ホームページ・往復はがき

往復はがきでの予約は①開催日 ②氏名・年齢(1枚につき1名)

③住所 ④(当日連絡可能な)電話番号を記入の上、下記宛先までお送り下さい。

〒675-0142 加古郡播磨町大中1-1-1 兵庫県立考古博物館学芸課 ☎079-437-5562

発掘調査速報会

主催：(公財)兵庫県まちづくり技術センター

当館講堂 定員72名【無料・要予約】

調査担当者が発掘成果を報告し、館長と遺跡の性格について討論します。

- 3月7日(日) 13:30~16:00(12:30開場) (申込締切2月23日)
 - 玉津田中遺跡(弥生時代前期の墓地 / 神戸市) 園原 悠斗
 - 登り田遺跡(古代の官衙関連遺跡 / 姫路市) 青山 航
 - 柏原旧城下町(柏原藩の家老屋敷跡 / 丹波市) 松崎 光伸
 - 兵庫津遺跡(近世の港湾遺跡 / 神戸市) 野田 優人
- 《各報告遺跡についての討論》和田 晴吾 館長 × 報告者
※終了後、調査担当者による展示解説を行います。

申込方法：兵庫県立考古博物館ホームページ・往復はがき

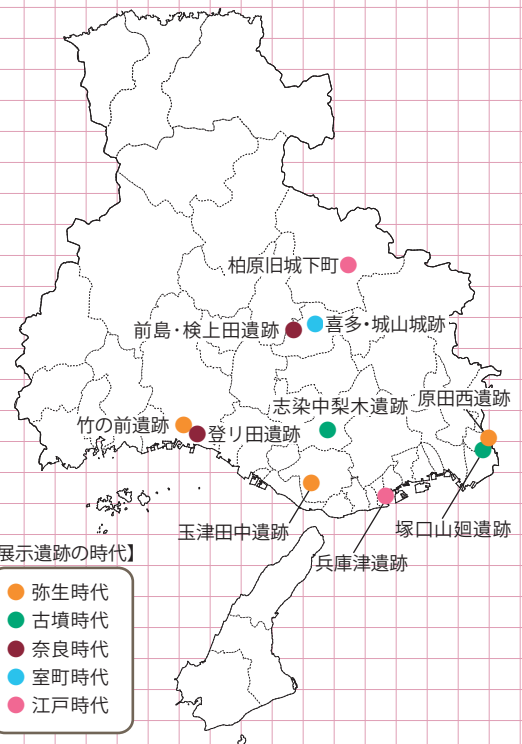
往復はがきでの予約は①開催日 ②氏名・年齢(1枚につき1名) ③住所

④(当日連絡可能な)電話番号を記入の上、下記宛先までお送り下さい。

問い合わせ先 ☎079-437-5561 〒675-0142 加古郡播磨町大中1-1-1

(公財)兵庫県まちづくり技術センター 埋蔵文化財調査部

展示遺跡の位置



企画展「ひょうごの遺跡2021ー調査研究速報ー」

主催 兵庫県立考古博物館

共催 (公財)兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部

編集・発行 兵庫県立考古博物館

〒675-0142加古郡播磨町大中1-1-1

TEL079-437-5599

発行日 令和3年1月16日